



美馬市観光戦略

【概要版】

令和7年度～令和16年度
(2025年度～2034年度)



2025 (令和7) 年3月

戦略策定の経緯

本市は、脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の合併により平成17年に誕生し、令和7年には合併20周年の節目を迎えます。本市には「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている脇町南町（うだつの町並み）や「日本遺産」に認定されている阿波藍、清流・穴吹川をはじめ、市全体に歴史・文化・自然などの魅力的な観光資源があり、それらを活かした観光を通じた地域活性化が求められています。特に、周遊・滞在型の観光に取り組むことが重要であり、各観光資源・施設の連携も必要です。

平成27年度から本市は、「美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第2期美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少問題の克服と持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

また、令和7年度からは、総合戦略を「第3次美馬市総合計画 後期基本計画」と一体化させ、その中の重要な柱の一つとして「観光業の振興」を位置付けながら、本市ならではの歴史や文化、自然等、多様性に富んだ観光資源を最大限に活用し、「滞在型観光」への転換と「儲かる」観光の促進に取り組むこととしております。

広域連携の取り組みとしては、平成20年に美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町の2市2町でにし阿波～剣山・吉野川観光圏協議会を設立し、剣山や吉野川などの地域資源を活かした観光圏整備実施計画を策定しました。直近の徳島県の観光トピックスとして、令和6年11月に徳島県で初めての国際線定期便として徳島～香港間が就航し、さらに翌12月には徳島～韓国間も就航しました。今後は徳島県内の観光地を訪れる訪日外国人も増加することが見込まれます。

さらに発展させるためには本市全体の観光戦略と結びつけながら定期的な見直しを行い、今後10年間における明確な数値目標を設定し、進捗を管理することが必要です。

以上の経緯を踏まえ、本市では観光戦略を策定し、訪日外国人を含む観光客の誘客増加と観光経済の活性化を目指します。



戦略の位置付けと期間

本市の観光戦略は、市全体の地域活性化および経済振興における重要な柱として位置付けています。市の基幹産業である農林業や商工業との連携を強化し、地域全体で一体的な観光振興を図る「オール美馬」のアプローチを推進していきます。これにより、地域固有の歴史、文化、自然などの資源を最大限に活用し、持続可能な観光地づくりを目指します。

観光戦略の計画期間については、今後10年間を対象としています。この期間中、明確な数値目標の設定、施策の進捗管理、および定期的な評価・見直しを行い、柔軟かつ実効性のある施策を推進します。また、観光客数の増加や観光消費額の向上に加え、訪日外国人観光客の誘致拡大や地域住民の生活向上にも資する観光施策を展開することを目指します。

観光戦略の期間

本戦略の期間は、令和7年度から令和16年度までの10年間とし、策定した施策や数値目標等については、定期的に見直しを行うものとします。

将来像と基本コンセプト

本市観光の特徴を整理した上で、基本方針を定め、方針に沿ったコンセプトを設定

本市観光の特徴

美馬市の観光の特徴を、観光の現状や課題の分析結果をもとに、次のとおり整理しました。
本市の観光の特徴として、各時代の美しい建造物が数多く残されており、歴史や文化を感じることができる点が挙げられます。また、伝統文化を継承する精神も重要な特徴の1つです。さらに、美しい自然や保存活動によって地域の魅力を守り続けていること、そして職人の技が光るアート&クラフトも観光客を惹きつける要素となっています。

各時代の美しい建造物が残っており、歴史の流れや文化を感じることができる

吉野川、穴吹川、剣山などの豊かで美しい自然は落ち着いた雰囲気ですローライフや癒しに適している

歴史や伝統文化を継承する精神を大切にしつつ、花火大会をはじめとした新しいものへの取組もはじまっている

世界農業遺産や町並み保存活動を通じて、地域の魅力の持続性を追求している

本市の山々からは剣山や歴史ある建造物や町並みなども一望できる景観が広がる

吉野川水流がもたらす阿波藍を用いた藍染めや美馬和傘など、職人の技が光るアート&クラフト

古くから交通の要所で、アクセスが良好であることから、自家用車やレンタカーでの周遊に適している

各エリアには歴史や自然の美しさの共通点があり、さらに連携を強化することで、儲かる観光に繋げられる可能性がある

基本方針

時間に「浸る」旅をする場所の提供
美を軸としたコンテンツづくりと
協力体制の構築

自然の恵みから発展した歴史を
保全・活用し、儲かる観光に
繋がる好循環な仕組みの構築

基本コンセプト

3つの美にこだわるまち

本コンセプトでは、本市における剣山や穴吹川といった「自然美」、世界農業遺産等といった「健康美」、そして阿波藍や美馬和傘に代表される「伝統美」の3つの美にこだわり、それらを磨き上げ、最大限活用することを目指しています。また、時間に「浸る」旅をする場所の提供や歴史の保全と活用を通じて、儲かる観光へとつながる好循環の仕組みを構築することを目指しています。

さらに、市民、観光関連事業者、行政など観光に関わるすべての人が、共通の認識を持ち、観光施策を一体となって推進できるよう、方向性を示しました。

将来像と基本コンセプト

3つの美について

3つの美については「自然美」、「健康美」、「伝統美」と決めました。具体的には、「自然美」とは、吉野川や穴吹川、剣山といった本市の豊かな自然が織りなす美しい景観を指します。「健康美」とは、世界農業遺産や食文化、そして都会では味わえない本市ならではの美しい生活を意味します。「伝統美」とは、美馬和傘や藍染め、鹿服、うだつの町並みなど長い年月をかけて守り続けてきた美しい伝統のことを表します。



3つの美にこだわるまち

ミッション・ビジョン・バリュー

美馬市観光戦略策定協議会でのワークショップなどを通じて、以下のミッション・ビジョン・バリューを設定しました。このミッション・ビジョン・バリューに基づき、観光関連事業者、行政、そして市民が一体となって観光振興に取り組んでいきます。



美馬市の目指すイメージ

清流・穴吹川で
家族や友人で水遊び。
ゴミの持ち帰りを徹底し、
綺麗な川を守ります。

ボランティアガイドから
歴史を学びながら寺町を散策。

世界農業遺産の景観や
地元野菜を味わい、
美馬市の生活を体験。



藍染や美馬和傘などの
美馬市の伝統工芸を
アート・クラフトとしても
発信しています。

着物に着替えて、
タイムスリップした気分。
写真撮影を楽しみます。

目標指標の設定

KGI・KPIの設定

基本方針

時間に「浸る」旅をする場所の提供
美を軸としたコンテンツづくりと
協力体制の構築

自然の恵みから発展した歴史を
保全・活用し、儲かる観光に
繋がる好循環な仕組みの構築

基本
コンセプト

3つの美にこだわるまち

重要
達成
指標
KGI

10年後の美馬市観光消費額 192億円
(観光入込客数 × 一人当たりの観光消費額)

KPI
(数値目標)

項目	既存値等	将来目標値 (10年後)
観光入込客数 (人)	605,958	714,000 17%UP ↑
インバウンド観光入込客数 (人)	1,579	3,500 121%UP ↑
宿泊者数 (人)	54,769	71,000 29%UP ↑
一人当たりの観光消費額 (円)	22,687	27,000 20%UP ↑

■観光入込客数

令和5年実績を基準とし、基準値の約2% (1.2万人) /年ずつ増加すると仮定し、算出。(なお、徳島県の観光客数は万博開催の令和7年以降は基準値の5%にあたる100万人/年の増加を見込んでいます。) ※コロナ前5年間 (平成27年～令和1年) の平均観光客数は73.7万人でした。コロナ以降の令和5年度の実績を基準値としています。

■インバウンド観光入込客数

徳島県のインバウンド観光入込客数の割合が全体の0.26% (令和4年度) であったことから、同割合で本市の既存値を算出しています。

なお、計画1～3年目を0.26%、4～6年目を0.3%、7～9年目を0.4%、10年目を0.5%の割合で推移すると仮定しています。

■宿泊者数

令和5年の宿泊者数は観光入込客数に対して約9%でした。毎年約0.1%ずつ増加して10年目には約10%に達すると仮定しています。

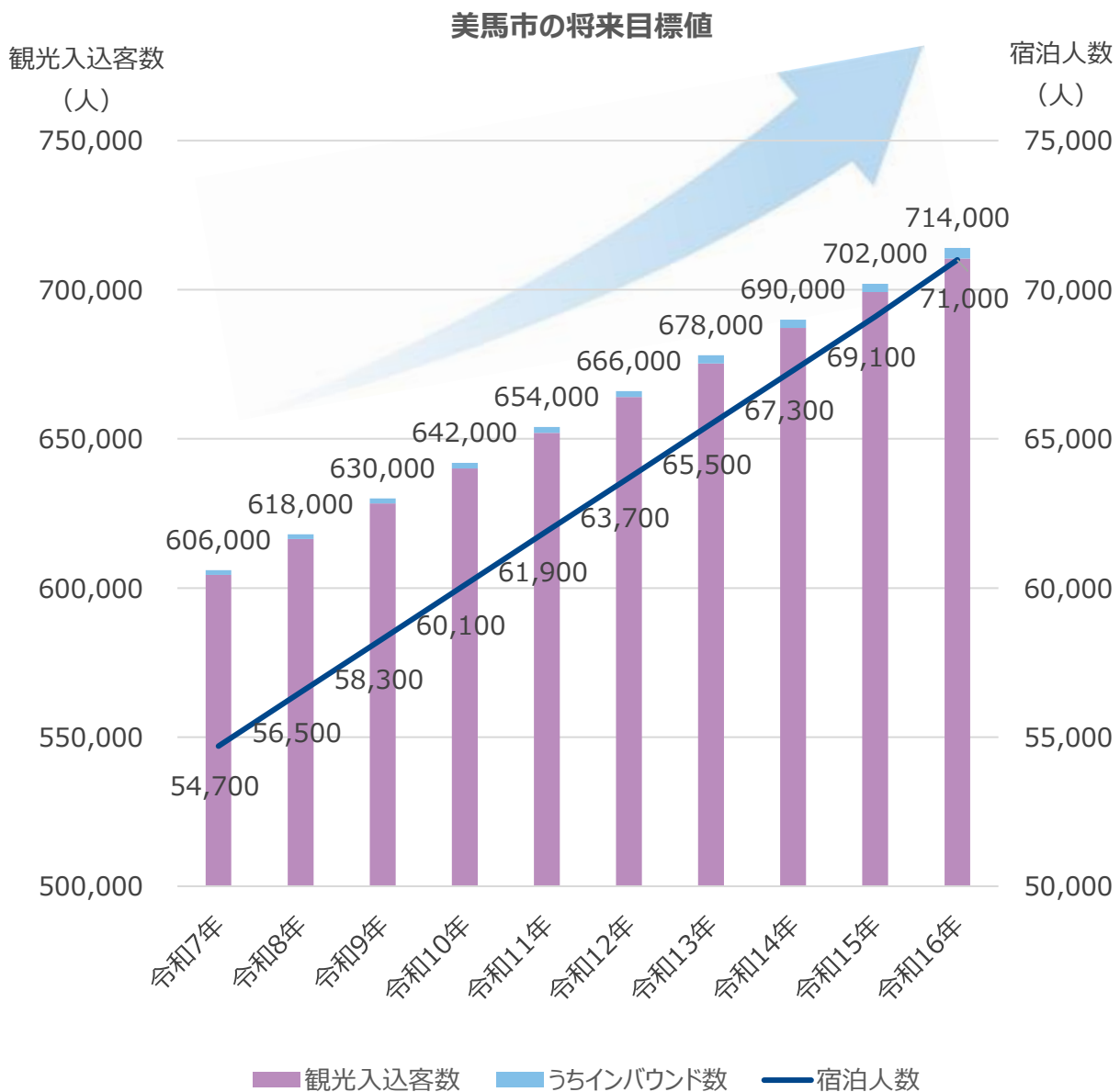
■一人当たりの観光消費額

令和5年実績を基準とし、10年後は基準値の約20%増加を目標とします。

目標指標及び目標値

KPI達成イメージ

各KPIの指標推移をグラフで表しました。10年間で「観光入込客数」、「インバウンド観光入込客数」、「宿泊者数」の増加を目標とします。なお、初年度（令和7年）の目標値は令和5年実績をベースに推移すると見込んで、端数調整のみ行っております。



実施計画

実施計画の方向性

本観光戦略では、5つの方向性を定め、それぞれについて基本施策を展開します。

	方向性	基本施策
実施計画	地域内経済循環を促進する取組	①宿泊施設・飲食店の誘致促進
		②各観光施設・サービスのマネタイズ化・高付加価値化
		③美馬市内の周遊ルート開発
		④新しい魅力づくり（地域産品開発等）
	観光客満足度に関する取組	①「アート＆クラフト」「美」のコンセプトにあったコンテンツ開発
		②穴吹川～剣山を味わえるコンテンツ開発
		③にし阿波の傾斜地農耕システムの体験コンテンツ開発
		④ストレスフリーな環境整備（キャッシュレス化・デジタル化）
		⑤観光客誘致・現地対応の強化
		⑥障がい者に配慮したまちづくりとインフラ整備
		⑦平日や夜間でも楽しめるコンテンツ・イベントづくり、四季を味わえるイベント
	環境・自然活用と保全に関する取組	①重伝建エリアの保全・利活用の推進
		②美馬市ならではの魅力的な写真スポットの創出
	人材確保・育成に関する取組	①職人の声が聞ける機会の創出（ワークショップやイベント開催）
		②美馬市に愛着や誇りを持てる環境づくり
		③教育旅行の受入れ強化・地元住民とのふれあい
住民満足度に関する取組	①自然環境と住居に配慮した観光地づくり	
	②観光にかかわる人の巻き込みを増やす	

推進体制

推進体制

観光戦略の実施体制は、本市と地域DMOの（一社）美馬観光ビューローが中心となって関係者と連携しながら、それぞれの施策に取り組んでいきます。

